

左 下之嶋 小河河内守

居頭 追田掃部助

右 上之嶋 二階堂④因囚獄允
公役

同四年丙子

左 下之嶋 小河兵部少輔
公役

右 上之嶋 江利根太郎
公役

居頭 小河右衛門尉やとい

寄子 橋口孫兵衛

同弥左衛門

同五年丑

左 下之嶋 小河軍三郎
公役

脇頭 吉永市左衛門尉

同 大原加藤左衛門

右 上之嶋 上山但馬守
公役

脇頭 後藤弥七郎

橋口段右衛門尉

同六年寅

左 長濱か、り候

御小居頭④北御名代

長濱右近

右 中野 橋口九郎兵衛
上之嶋 公役

上村次兵衛

早瀬④太大右衛門

天正六年戊寅八月十五日久季為御立願社壇力檀サイヨウ、同

御立願内鳥居、同月十九日、如此之儀為後日候、

當時 小河又左衛門殿

公役 江周防殿

同七年卯

左 下之嶋 居頭 小河半佐
公役

右 上之嶋 居頭 橋口市佐
公役

同名八左衛門

同小八郎

同八年辰

左 下嶋 公役 小河右兵衛尉

居頭やと住浦内藏助

公役 小河治部右衛門尉

右 上嶋 寄子 江口全兵衛尉

居頭 同衛門尉

是枝善左衛門尉

同姓新右衛門尉

同九年辛巳八月廿五日

左 上嶋居頭 二階堂右京亮

右 下嶋居頭 上山石見守

尾崎牛助

中間与三左衛門

同近兵衛

同十年午

左 下嶋居頭 小河源次兵衛

右 上嶋公役 塩田藏人助

寄子 中間弥平兵衛

同 中間藤三

同十一年未八月廿五日

左 下嶋公役 小河与佐允

寄子 延時齊六

同名弥七左衛門尉

江口新兵衛

右 上之嶋居頭 塩田備前守

同十二年申十二月廿五日

左 下嶋居頭 二階堂主水助

寄頭竹内藤七郎

上村長六兵衛

中間とら

右 上嶋公役 尾崎三郎四郎

相頭岸八郎

寄子後藤源太左衛門

中間太郎二郎

同十三年乙酉八月廿五日

左 上嶋公役 塩田主馬允

田氏甚助

安藤藏助

右 下嶋相頭 江口与左衛門

上村源十郎

中間大原賀藤兵衛

中間野下三左衛門

同十四年戌八月廿五日

左 下嶋相かへり 迫田助兵衛

右 上之嶋 小川(河)介

公役 船頭(河)小川安藝守(居)

同十五年亥

左 上之嶋 小川(河)縫殿助

公役 居頭尾崎平右衛門

右 下之嶋 居頭長濱源次兵衛

公役 寄子住浦助左衛門

同 上山石見

同(河)中間三右衛門

同十六年子

左 下之嶋 寄子後藤半五郎

居頭 長尾又左衛門(尉)

中間池田大學

右 上之嶋(河)公役 居頭小宮四郎左衛門(尉)

寄子才四郎

後藤彦八

中間 傳内左衛門

同三兵衛

天正十七年己丑八月廿五日

左 下嶋 相頭江伊豆

公役 居頭尾崎四郎

寄子中間源四郎

右 上嶋(河)相頭森崎市郎兵衛

公役 居頭高橋甚六左衛門(尉)

寄子中間小五郎

同十八年寅

左 下嶋 居頭江治部左衛門尉

公役 相頭江口權七

中間小次郎

岸彦左衛門(尉)

右 上嶋 居頭後藤軍七

公役 寄子中間甚九郎

同中間 弥四郎

天正十八年庚寅八月廿日為御立願内鳥居造立(時)役

小嶋大炊助

天正十九年辛卯八月廿五日

左 下之嶋 居頭(河)山崎安藝守

公役 同名佐吉

高田平内左衛門

中間市允

右 上嶋 居頭やとい 二階堂右京亮 公役

同名又六

同二十年辰十一月廿五日

左 V^⑨久水下嶋△ 居頭 相掛り 追田四郎右衛門

右 上之嶋 公役 江平六

崎田弥左衛門

橋口軍七

同⑨名 孫三郎

居頭 山崎安藝守

文祿二年巳八月廿五日

左 下嶋 公役 小河龜房丸 居頭

坂口志广助

右 公役 居頭 橋口市之助

上之嶋 公役 橋口二之助

寄子 塩田弥七郎

同 橋口孫七

同 大山半七

同三年⑨午

左 V^⑨下之嶋△ 居頭 御立願 長濱彈左衛門尉 降季やとい 居頭

右 上嶋 公役 橋口九郎兵衛 居頭やとい

上山五右衛門尉

寄子 橋口七⑨ナシ右衛門

同名小八郎

文祿四年未八月廿五日

左 V^⑨下之嶋△ 小河六郎左衛門尉 居頭

延時弥七左衛門尉

右 ⑨ナシ 居頭 是枝又七 公役

山中弥平兵衛

是枝金三郎⑨太

山中齐介⑨助

文祿五年丙申八月二十八日

下之嶋 ※

御諏訪御祭礼

寺師主馬首殿今春從両嶋御吸⑨二付御心底而御祭礼之儀

原崎兵右衛門江被仰付申調候、本代二八相違候条、本

帳ニ替書申候、後日之為御覚如此候、猶子細之日記ハ
兵右衛門江付置申候、

筆者

鳥居与三右衛門

※(行間)

「横川酒匂氏由緒ニ、慶長三年戊戌の年、薩州甕嶋を領せられし小川藤八郎殿於高麗無奉公有けるとて、田布施ニ屈居せられて切腹なり、後夫景信と岩崎出羽守兩人ハ甕嶋地頭代官を被仰付、十一ヶ年致勤仕もの也、其時節、肥後國守加藤主計頭高麗ニて御意根^(マ)有とて薩广入を仕給ふと雜説止事なし、折節甕嶋の曆々余人質ニ帖佐へ被召置給ふ也、然處に 義弘様より直の御意ニ承候、甕嶋ハ肥後境目の嶋ニて有間、別て念入て御奉公申せとの直の御意を度々に被下候、別而於甕嶋兩人御奉公申上たり、其後甕嶋ハ鹿兒嶋御屋形ニ御進上被成候時役相替りニて、其時地形を本田甲斐守殿に給せ給ふ也、^(頭カ)^(伊賀カ)按スルニ、景信ハ酒匂加賀守景綱子源五郎事ニて、後は勘右衛門と云、天正中軍勞アリ」

▽
◎

写

右年号一卷終、從是御造作年号書加、

棟札写

同 康永三年甲申二月十二日 大願主沙弥崇光

同

同 至徳二年乙丑三月廿三日甲申 大願主主計允藤原重有

同 大工八郎左衛門尉平武友 小工六郎左衛門尉平友光

同

同 應仁三年^(己)乙丑八月廿七日 大願主日奉氏季次

同

同 延徳三年辛亥八月廿七日 造事奉行小河季房^(巻) 大工新右

衛門尉方俊 小工已上八人 鍛冶又右衛門 大願主日奉

小河遠江守公季

同

同 文龜三年癸亥八月二十六日 日奉氏遠江守公季 大工宮

田伊豆 小工十一人 鍛冶藤原氏久續 祝子清原氏種續

同

同 天正六年戊寅八月十五日甲午 日奉氏^(証)并童男千益丸

造供奉行小河又左衛門尉重郷 梶原右^(馬)尉景房 小

工江茂三郎 鍛冶八左衛門尉

▽
◎大聖寺頼變代

神主次郎左衛門尉△

同

慶長十六年辛亥八月二十六日

當代官曾木甚右衛門重正 役人和田讚岐守正親 嘍

〔衆〕^{⑨ナシ}小河越中守季恒 作事奉行和田伊豆守正清 小川

正左衛門尉季理

同

寛永十五年戊寅九月吉祥日

當嶋地頭本田伊賀守親政 大工橋口市郎兵衛吉祐 大

工松田甚左衛門 和田治部左衛門 小河左馬助 願主

其外當所衆中 神主原崎彦七郎四十歳

同

寛永十六年己卯二月吉祥日

當嶋地頭本田伊賀守親政 和田治部左衛門 小河左馬

助 大工橋口市郎兵衛吉祐 松田甚左衛門 ∇^⑨和田治

部左衛門△ 小河右馬之助 願主其外衆中 神主原崎

彦七郎四十一歳

同

寛永十六年己卯二月吉祥日

當嶋地頭本田伊賀守親政 和田治部左衛門 小河左馬
助 大工橋口市郎兵衛吉祐 小工吉永左近將^{⑨マヤ} 神主甚
左衛門 彦七郎

∇^⑨封封

ニ^⑨奉再興諏訪上下社頭一字

封封 聖主天中天

迦陵頻伽聲

哀愍衆生者

我等今敬礼

大檀那大梵天王

大願主帝釋天王

右、奉為護持信心大檀那當地頭比志嶋堅助源範員御息災延^{物イ}

命、武運長保、年月厄難未然脱解、怨敵退散、殊者當嶋安

泰、万民快樂、風調雨順、五穀成就之故也、

仍願狀如件、 當社務原崎兵部左衛門

寛文七丁未年四月吉日

座主大聖寺法印快賢

造事奉行 和田治部左衛門

〔同〕^{⑨ナシ}

△

寛文七丁未年四月吉日

8

曳付

當地頭比志嶋監物源範員 當社務原崎兵部左衛門 大

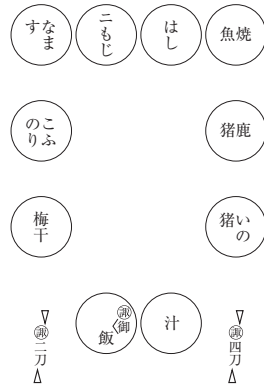
屋敷壹段貳畦四歩

聖寺法印快賢 造事奉行和田治部左衛門

右者、此中御船手水主屋敷ニ而候処、此節頭殿別火所
屋敷ニ被召成候間、可有支配者也、

明曆三年酉卯月廿七日

御書 殿付 申上



▽ ④諏訪大明神 小浮者(志斗八カ) 升△
(ママ)

- 〔町田〕 勘解由〔忠代〕
- 〔新納〕 右衛門〔久詮〕
- 〔伊勢〕 兵部〔貞昭〕
- 〔鎌田〕 筑後〔政直〕
- 〔鳥津〕 筑前〔久頼〕
- 〔鳥津〕 圖書〔久通〕

支配奉行

- 岩切嘉左衛門殿〔信吉〕
- 有馬勘左衛門殿〔純廣〕
- 伊地知主膳殿〔重頼〕
- 新納縫殿助殿〔久宗〕

甌島郡

上甌 惣廻拾四里五町

往古作子敷、或古志岐、今為甌、

下甌 惣廻拾貳里廿二町

一 古昔小川氏領之、建武四年八月頃之旧記ニ地頭小川小太郎武光と有、

一 慶長十六年より寛永十六年迄移地頭本田伊賀、小川太郎季能宇治川合戦依軍功知行ス、其子小太郎季直代下向當嶋と云々、

一 遠見番所在上甌嶋、

文書目録

例言

- 一 本巻に収めた「出水郡地誌備考」「伊佐郡地誌備考」「甌島郡地誌備考」を、それぞれ掲載順に通し番号を付して収録した。
- 一 本目録は、記事・記録を除いて文書のみを記載した。
- 一 文書は、番号のほか、年月日、文書名を記載した。
- 一 文書の年月日については、原文書記載の年紀はそのままとし、補筆の年紀は「」で囲んだ。また疑義の示されているものは「」で囲んで区別した。
- 一 年紀を欠くものうち、推定しうるものは（）で示した。
- 一 月の異称は数字に改めたが、正月、朔日、晦日などはそのまま残した。
- 一 原則として『鹿児島県史料 旧記雑録』及び『同 旧記雑録拾遺』にならい文書名を付けた。
- 一 重複により本文を省略した文書には※印を付した。

		出水郡地誌備考			出水郡				
番号	年	月	日	文書名	番号	年	月	日	文書名
一	文保 元年	七月	晦日	薩摩国御家人交名注文抄	二〇	文和 三年	六月	廿日	島津師久注進状
二	建久 四年	九月	四日	将軍家政所下文	二一	文和 三年	六月	日	知色城攻手負分捕注文
三	明德 五年	四月廿五日		今川了俊感状	二二	文和 三年	六月	日	知色城攻味方交名注文
四	正応 五年	四月 七日		和泉保道讓状抄	二三	文和 三年	九月 三日		足利尊氏御教書
五	建久 四年	九月 四日		将軍家政所下文	二四	文和 三年	九月 三日		足利尊氏御教書
六	正安 二年	六月十五日		藤原家泰亮券	二五	文和 三年	六月 廿日		島津氏久請文
七	嘉暦 四年	三月 二日		本田静観 ^貞 讓状	二六	文和 三年	九月十八日		島津師久軍忠状抄
八	延慶 二年	十月 二日		鎮西下知状抄	二七	文和 四年	六月十八日		島津氏久請文
九	建仁 三年	十二月廿八日		北条時政下文	二八	文和 四年	十一月 五日		島津師久請文
一〇	正平 元年	三月廿八日		平家高讓状	二九	文和 四年	十二月廿八日		足利尊氏御教書
一一	正平 五年	四月廿五日		征西將軍宮令旨	三〇	文和 四年	十二月廿八日		足利尊氏御教書
一二	応永十五年	正月十一日		沙弥性慶讓状	三一				討死人交名注文
一三	正慶 二年	閏二月十九日		島津道鑑 ^貞 所領安堵状	三二				島津師久書状
一四	建武 二年	三月十一日		島津道鑑 ^貞 下文	三三	慶長 四年	九月十七日		島津師久書状
一五	天授 三年	六月 卅日		島津伊久宛行状	三四	慶長 四年	正月 九日		豊臣氏五大老連署感状
一六	延文 五年	八月廿二日		島津道鑑 ^貞 下文	三五	文永 三年	八月廿六日		関東下知状抄
出水郷					三六	元徳 二年	五月 一日		肥後国守護代請文抄
一七	[文禄 二年]	五月 朔日		豊臣秀吉朱印状	三七	天正十五年	四月		豊臣秀吉定書
一八	[文禄 元年]	十二月 晦日		豊臣秀吉朱印状	高尾野郷				
一九	[文禄 二年]	五月廿七日		島津義弘書状案	三八	正平 元年	三月廿八日		平家高讓状
					三九	文安 六年			持家讓状
					四〇				某讓状

野田郷

八

渋谷 祁答良重家門并家臣目録

四一

文明 十年 十月十五日 島津国久寄進状

九

元応 二年 十月廿二日

鎮西御教書

四二

応仁 二年 十一月十五日 沙汰仁道仙寄進状

一〇

元応 二年 五月 日

薩摩八幡新田宮雜掌重申状

四三

応永十七年 十二月十一日 島津久世宛行状

一一

永正 二年 十二月 日

渋谷 祁答重貴寄進状

四四

文明 二年 二月 時正 坪久田嘉紹寄進状

一二

永仁 五年 二月十八日

薩摩祁答院松尾寺建立願文

四五

応永十八年 九月十五日 島津久世宛行状

一三

嘉曆 三年 十月十九日

斑目景泰書状

四六

文保 元年 七月 晦日 薩摩國御家人交名注文抄

一四

嘉曆 三年 四月 一日

法橋琳春院主職讓状

四七

文明 二年 十月 九日 島津国久書下

一五

正和 五年 十一月 八日

法橋琳春所職讓状

四八

永正 十年 十月 吉日 阿久根院水田坪付

一六

正和 五年 三月十八日

沙弥道海寄進状

四九

弘治 三年 十二月 吉日 島津陽久虎書状

一七

応安 二年 十二月廿九日

薩摩祁答院松尾寺住持職補任状

五〇

慶長 四年 正月 九日 豊臣氏五奉行連署知行目録抄

一八

至徳 二年 十二月廿七日

薩摩祁答院松尾寺院主玄祐讓状

伊佐郡地誌備考

伊佐郡

一

文祿 四年 六月廿九日 豊臣秀吉朱印知行方目録抄

二〇

永享 二年 八月廿九日

法印快鏝讓状

二

曆応 四年 七月 日 渋谷千代童九代信政申状抄

二二

永享 四年 二月廿二日

原田房次寄進状

三

〔永祿十二年〕 閏五月十七日 島津伯固貴書状

二三

永享 六年 八月 日

權少僧都快弁新開田証文

四

天正 廿年 八月十四日 豊臣秀吉朱印状

二四

寛正 五年 三月 五日

沙弥道憲寄進状

五

天正 廿年 八月十四日 豊臣秀吉朱印状抄

二五

天文 二年 八月 日

薩摩祁答院興全寺住持興弁寄進地記文

六

建武 二年 二月 卅日 内裏大番役交名注文

二六

天文 廿四年 三月 吉日

平氏女寄進状

七

永祿 〇年 渋谷院 重豊知行宛行状

二七

弘治 三年 二月彼岸日

薩摩祁答院興全寺頼意置文

宮之城郷

文書目録

二八	天正二年	八月彼岸日	薩摩祁答院興全寺住持	四七	元亨二年	十月廿六日	牛屎元尚和与状
二九	延元四年	六月 日	頼意寄進地置状	四八	元亨三年	十二月十二日	造宇佐官料請取状
黒木郷			村田如巖軍忠状	四九		四月 十日	島津元久書状
三〇	応安七年	十二月廿一日	渋谷重茂避状	五〇		二月 卅日	島津忠国書状
山崎郷				五一	安元二年	七月	島津庄留守某下文
三一	文祿四年	十月 七日	伊集院幸侃・本田三清 連署返地目録抄	五二	元弘二年	十月 十日	沙弥恵仏讓状抄
大村郷				五三	正平廿年	三月十二日	檜前政国沽却状
蘭牟田郷				五四	応永十八年	八月 十日	大隅国菱刈院地頭職知行所注文
三二	元和六年	三月 三日	島津久元外四名連署知行目録	五五	1 (安政六年)	四月	島津齊興沙汰書
牛山郷				五六	2 安政六年	四月十六日	島津齊興沙汰書
三三	文保元年	七月 晦日	薩摩国御家人交名注文抄	大口古事見聞記			
三四	文永三年	九月 廿日	島津道 ^{時忠} 讓状	五七	貞和六年	正月 七日	足利直義書下
三五	文永三年	二月廿七日	島津道 ^{時忠} 讓状	五八	文永三年	二月 八日	島津道忍久寄進状
三六	(文治三年)	五月 二日	源頼朝御教書	五九	天正八年	二月 吉日	島津氏老臣連署寄進坪付
三七		四月 十日	島津元久書状抄	六〇	天和元年	十一月十八日	寺社奉行所証状
三八		二月 晦日	島津忠国書状抄	六一	寛文十年	九月十六日	永福寺聞書
三九			菱刈氏由緒書拔	六二	寛政十二年	八月	芦谷市六請書
四〇	安元元年	八月 日	右近衛府牒	六三	天正二年	二月 吉日	大口愛宕神社神体裏銘
四一	安元三年	四月 日	右近衛府政所下文	1	享保十八年	十一月吉祥日	菱刈実洪外二名連署願文
四二	文治三年	五月 三日	源頼朝下文				
四三	文永二年	十二月廿七日	関東下知状				
四四	元亨元年	十月十一日	関東下知状				
四五	元弘二年	十月 十日	沙弥恵仏讓状				
四六	建武四年	六月十五日	沙弥恵仏申状	牛山郷 鶴田郷	文永五年	二月 二日	宗芳讓状

佐志郷

※ 六五 寛正 五年 九月十八日 大山太郎九郎寄進状

六六 明応 四年 九月十八日 渋谷祇峯重慶寄進状

六七 大永 七年 二月彼岸吉日 藤井房幸寄進状

甕島郡地誌備考

甕島郡

甕島郷

一 文保 元年 七月 晦日 薩摩国御家人交名注文

二 [元和 五年] 四月廿二日 島津久元・伊勢貞昌連署状

上甕

下甕

甕島旧跡考

三 (万治 三年) 正月廿九日 下甕島暖役和田治部左衛門覚書

四 (万治 三年) 三月 五日 郡奉行所達書

五 (万治 三年) 二月廿一日 取納奉行所權山左京・坂五兵衛連署手形

六 (万治 三年) 二月廿三日 有馬治右衛門・柏原弥太右衛門連署手形

七 (元禄 三年) 三月 九日 本田八左衛門覚書抄

下甕島諏訪社頭殿記

甕島郷

八 明暦 三年 四月廿七日 島津久通外五名連署曳付

鹿児島県史料編さん関係者

史料編さん
顧問
東京大学
史料編纂所所長
山家浩樹

国立歴史
民俗博物館元館長
宮地正人

鹿児島大学名誉教授
五味克夫

九州大学名誉教授
安藤保

委員
原口泉
三木靖

日隈正守
佐藤宏之

塩満郁夫
尾口義男

堂満幸子

宮下満郎
(平成二十八年八月十六日御逝去)

鹿児島県歴史資料センター黎明館

館長
灰床義博

副館長
生見博志

調査史料室
長内倉昭文

学芸専門員
崎山健文

資料調査員
黒川智世
中野尚子

編集
春山直人
藤崎光穂
池田麻美

鹿児島県史料

旧記雑録拾遺 地誌備考四

平成29年3月17日 発行

非売品

編集 鹿児島県歴史資料センター黎明館

発行 鹿児島県

印刷 潤上印刷株式会社